

政治学研究科

【2024 年度大学評価総評】

博士後期課程コースワークにおいて、「博士論文演習」（チュートリアル）を博士課程に在籍する全学生に対して実施し、ほぼ毎年博士学位審査論文が提出されるなどの実績に結び付いている点が評価できる。教育課程に関しては、必要に応じたオンライン授業が実施され学生のニーズに対応しており、研究科会議において政策系研究科の院生を受け入れるための講義枠の拡大について議論が行われているなど、今後の充実が期待される。学生の受け入れに関しては、入試ガイダンスにおける個別相談の実施や講義を通じた周知により、学内からの進学者が毎年継続的に存在している点は注目したい。さらに多様な受験生の増加に向けた説明会実施の効果に期待するとともに、修士論文執筆のための指導の充実化が行われており、こうした取り組みが研究科の魅力を高め志願者の増加に貢献することになることが期待される。

なお、「授業改善アンケート」及び「修了生アンケート」については、各教員が必要に応じて個別に参照し授業改善などに活用しているという運用については理解できるが、今後はアンケート結果等について研究科内で適宜共有するなど組織的にも活用していくことが望まれる

【認証評価結果における指摘事項への対応状況に関する評価】

2019 年度認証評価の指摘事項とされた研究科の「学生の受け入れ」に関して、定員数の削減を行いつつ、学生相談や学部講義等での取り組みなどの一連の対応策により学内進学者の継続的確保につながっており、収容定員充足率が改善されたことは評価できる。引き続き、より多くの志願者を確保し、厳正な審査を行った上で、合格者・入学者の確保に努めるために、こういった取り組みの継続が望まれる。さらに様々な経路・キャリアの受験生の増加に向けて具体的な検討が進められることを期待する。

大学基準協会の第 4 期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024 年度自己点検・評価シートに記載された
I 現状分析を確認

「いいえ」が選択されている評価項目があるが、課題が見いだされ、適切な改善計画が立てられていることが確認できた。

【2024 年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準 1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①研究科（専攻）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②研究科（専攻）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
N 【根拠資料】	
大学 HP 【政治学研究科】 https://www.hosei.ac.jp/gs/seiji/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54 【政治学専攻】 https://www.hosei.ac.jp/gs/seiji/seiji_senko/ 【国際政治学専攻】 https://www.hosei.ac.jp/gs/seiji/seiji-kokuseiji_senko/	

基準 2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質

保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①研究科において、研究科長及び教授会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②研究科において質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
法政大学大学院政治学研究科教授会規程 https://www.hosei.ac.jp/kyoshokuin/kitei/doc/rule/63.html	

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
【根拠資料】	
大学 HP 【ディプロマ・ポリシー】 https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/daigaku_in/ 【カリキュラム・ポリシー】 https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/daigaku_in/	

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学大学院学則」第15条（「単位」）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
大学 HP 【政治学専攻（修士課程）・カリキュラムマップ】 https://www.hosei.ac.jp/application/files/5316/5423/1389/20220603.pdf 【政治学専攻（博士課程）・カリキュラムマップ】 https://www.hosei.ac.jp/application/files/9915/7439/9275/2019_seijigaku_doctor_curriculum_map.pdf 【国際政治学専攻・カリキュラムマップ】 https://www.hosei.ac.jp/application/files/4117/1323/9207/2024_kokusaiseijigaku_curriculum	

map.pdf 【政治学専攻（修士課程）・カリキュラムツリー】 https://www.hosei.ac.jp/application/files/3816/5423/1558/4843cc659e387585c33ded50188acdbc.pdf 【政治学専攻（博士課程）・カリキュラムツリー】 https://www.hosei.ac.jp/application/files/7615/7439/9389/2019_seijigaku_doctor_curriculum_tree.pdf 【国際政治学専攻・カリキュラムツリー】 https://www.hosei.ac.jp/application/files/2117/1323/9906/2024_kokusaiseijigaku_curriculum_tree.pdf 【学位論文審査基準】 https://www.hosei.ac.jp/application/files/9216/7878/8093/2023_seiji-kokusaiseiji_gakui.pdf 【政治学研究科・2024年度シラバス】 https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態に即して、1 授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③ I C Tを利用した遠隔授業は「2023 年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④単位の实质化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑤シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑥授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	はい
4.3⑦研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい
4.3⑧研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
【政治学研究科・2024年度シラバス】 https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php 【政治学専攻（修士課程）・修士号学位請求の審査日程とプロセスについて（2024年度）】 https://www.hosei.ac.jp/application/files/3117/1134/9873/seiji_process_master20240325.pdf 【政治学専攻（博士課程）・博士号学位請求の審査日程とプロセスについて（2024年度）】 https://www.hosei.ac.jp/application/files/3217/1134/9873/seiji_process_doctor20240325.pdf 【国際政治学専攻・修士号学位請求の審査日程とプロセスについて（2024年度）】 https://www.hosei.ac.jp/application/files/9716/7878/8244/kokusaiseiji_process_master20230314.pdf	

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学大学院学則」第20条の2（入学前既修得単位の認定）に基づ	はい

き既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	
4.4④「法政大学大学院学則」第22条（修了要件）、第26条（修了要件）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位論文審査基準を定め、文章等によって予め学生に明示し公表していますか。	はい
4.4⑥学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑦ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい
【根拠資料】	
大学 HP 【法政大学大学院学則】 https://www.hosei.ac.jp/application/files/6517/1100/5770/202441.pdf 【政治学専攻】 https://www.hosei.ac.jp/gs/seiji/seiji_senko/ 【国際政治学専攻】 https://www.hosei.ac.jp/gs/seiji/seiji-kokuseiji_senko/ 【政治学専攻（修士課程）・修士号学位請求の審査日程とプロセスについて（2024年度）】 https://www.hosei.ac.jp/application/files/3117/1134/9873/seiji_process_master20240325.pdf 【政治学専攻（博士課程）・博士号学位請求の審査日程とプロセスについて（2024年度）】 https://www.hosei.ac.jp/application/files/3217/1134/9873/seiji_process_doctor20240325.pdf 【国際政治学専攻・修士号学位請求の審査日程とプロセスについて（2024年度）】 https://www.hosei.ac.jp/application/files/9716/7878/8244/kokusaiseiji_process_master20230314.pdf 【学位論文審査基準】 https://www.hosei.ac.jp/application/files/9216/7878/8093/2023_seiji-kokusaiseiji_gakui.pdf	

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	いいえ
4.5②修了生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	いいえ
【具体的な活用事例】	

基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①修士課程・博士課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
大学 HP 【アドミッション・ポリシー】 https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/daigaku_in/ 【大学院入試要項、デジタルパンフレット等】 https://www.hosei.ac.jp/gs/jukensei/	

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】研究科・専攻における収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	
大学 HP 【学部、学科、研究科ごとの収容定員充足率】※本データは2023年5月1日現在のもの https://www.hosei.ac.jp/application/files/5916/8775/7033/2-b-2-8_.pdf	

表1

研究科・専攻における収容定員充足率	修士課程	0.50 以上 2.00 未満
	博士課程	0.33 以上 2.00 未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①研究科の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
大学 HP 【政治学研究科・教員紹介】 https://www.hosei.ac.jp/gs/seiji/kyoin/ 【法政大学ウェブサイト情報公開「修学上の情報」】 https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54	

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
【根拠資料】	
【政治学研究科・教員紹介】 https://www.hosei.ac.jp/gs/seiji/kyoin/ 【法政大学ウェブサイト情報公開「修学上の情報」】 https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54	

基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい

7.1④ ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい
【根拠資料】	
【大学 HP 学生生活サポート】 https://www.hosei.ac.jp/campuslife/support/	
【政治学研究科・2024年度シラバス】 https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php	
【2024年度法政大学大学院要項・学生生活について】 https://hosei-hondana.actibookone.com/?cNo=368392&param=MV8xXzc=&siteNum=3676&siteTitle=HOSEI%20HONDANA&pNo=232	

基準 8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
大学 HP 【不正防止に係る取り組み・規程】 https://www.hosei.ac.jp/kenkyu/6204/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54	
【コンプライアンス研修】 https://www.hosei.ac.jp/suisin/gakunaisha/compliance/	

基準 9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
【大学 HP 他大学・他大学院との連携】 政治学専攻単位互換協定 https://www.hosei.ac.jp/gs/daigakuin/renkei/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54	
【法政大学学術データベース】 社会貢献活動欄 https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/scripts/websearch/index.htm	
【科目等履修生などの受入】 科目等履修生などの受入状況 https://www.hosei.ac.jp/application/files/8116/8775/7030/2-f-7_1.pdf	

基準 10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
4 教育・学習	4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。 4.5②修了生アンケートの結果を組織的に活用していますか。

【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。

「授業改善アンケート」及び「修了生アンケート」は各教員が必要に応じて個別に参照し、授業改善などに活用している。今後はアンケート結果等について研究科内で適宜共有するなど組織的にも活用していくこととする。

II 改善・向上の取り組み

1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2023年度大学評価結果総評】（参考）

2022年度大学評価委員会の評価結果において、2021年度から博士後期課程におけるコースワークの導入が企図され、博士後期課程のカリキュラムの改善努力がなされている点が評価されている。ただ、その具体的な実施に関しては、コースワークの実質的な内容の充実やその機能の実現をどのように担保するかなどの留意点も指摘されている。その際、当該研究所の利点である少人数教育を維持しつつ、オンラインを活用してコロナ禍の厳しい状況に対処しながら、より完成度の高いカリキュラムの実現とその内実を充実させるために、教員間、執行部との連携を強化することにより、現実的な成果を実現していくことが期待される。

学生の受け入れに関しては、2023年5月1日時点では、博士課程の収容定員充足率が基準数値を下回っているものの、2023年度中期目標において、学部生に対する積極的な情報提供により当該研究科の魅力をより広く伝え、他大学や社会人に対しても同様の努力をすることが表明されている。定員充足への努力は、今世紀になって政策創造研究科・公共政策研究科と、外部からみて一見類似する政策系の研究科が相次いで設立された状況で、自研究科の特色・強みを意識した「住み分け」を図ることを意味する。それは上記のような地道な活動により不断になされるべきであり、そのための認識が研究科において共有されており、その成果が着実に実現されることが期待される。

【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

博士後期課程のコースワークのカリキュラムについては、博士課程の全在籍者に対する指導が引き続き順調に行われている。今後もオンライン・システム等を適宜活用しながら、本研究科の特徴である少人数教育に基づいて博士後期課程の研究指導の更なる充実を図っていく。また、そうした研究指導の成果を確実なものとするべく、教員間や執行部との連携をより一層強化し、課題や改善策の把握に努めていきたい。

博士課程を含む定員充足率に関しては、研究科としても引き続き問題意識を有している。本研究科の特徴をアピールしつつ、2023年度中期目標に掲げた方策を軸として、充足率の改善に努めていきたい。

2 各基準の改善・向上

基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5③学習成果を測定するために設定した指標は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5④学習成果を測定するために設定した指標に基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①研究科内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。		

Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
6.3②研究科内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

III 2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	博士後期課程コースワークの定着	
年度目標	博士後期課程コースワークの完全実施	
達成指標	博士課程在籍学生に対する完全実施を維持する	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	「博士論文演習」(チュートリアル)を博士課程在籍学生に対して完全に実施した。ほぼ毎年、博士学位審査論文が提出されるなど、実績が上がっている。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コースワークで重要ないわゆるチュートリアルを完全実施し、その結果としての実績も上がっていることは、本研究科における博士後期課程のコースワークが実質的にも機能していることの証左として評価できる。
	改善のための提言	引き続き博士課程在籍学生に対する完全実施が継続されていくことが期待される。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	COVID-19対応として導入の教育方法の定着	
年度目標	教育内容に適している場合にオンライン授業を活用	
達成指標	教育内容、感染状況などを勘案しつつ、必要に応じてオンライン講義を実施	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	必要に応じ、オンライン授業を一部で実施した
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	今年度の取り組みは、昨年度の質保証委員会による本項目の改善のための提言である、新型コロナウイルスを契機に導入が進んだオンライン授業について、社会が平常に戻った後も、院生のおかれた環境に配慮しつつ、アクセスしやすい授業形態について工夫を続けることが望まれる、という点からも評価できる。
	改善のための提言	COVID-19対応として導入された教育方法のうち、例えば修士論文執筆に向けた構想発表会・批評会という中間報告会での実践など授業以外の面についても、将来的にその定着の確認等を行うことが有益とみられる。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	学内の政策系の研究科等との更なる連携・調整強化	
年度目標	政策系の研究科の院生を受け入れた授業の展開	
達成指標	政策系の研究科の院生を受け入れる講義枠の拡大を図る	

年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	講義枠の拡大可能性について、政治学研究科会議において議論を行なった
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	政策系の研究科の院生を受け入れる講義枠の拡大に向けて議論を行ったことは、その実現に向けての重要な過程として評価できる。
	改善のための提言	政策系の研究科からの乗り入れ科目の拡大は今後も引き続き議論・検討を行いつつ、現状でも可能な政策系の研究科の院生も履修する科目の増加に向けて様々な機会を通してこれに努めることが望ましい。
評価基準	学生の受け入れ	
中期目標	2019年度認証評価の本研究科に対する指摘事項とされたのが本項目（の大学院の定員管理）であったことや、定員充足率が70%にまで昨年度実施の入試の結果改善されたことも踏まえて、引き続き、優秀なより多くの志願者を確保し、厳正な審査実施を行なった上で、合格者・入学者の確保に務める	
年度目標	厳正な審査と学生の質の確保を前提としつつ、政治学専攻を中心に、定員充足率を確保	
達成指標	質を維持しつつ、充足率の一層の改善に向けた方策の模索	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	入試ガイダンスなどにおいて、学生からの相談を受け、さらなる受け入れに向けて努力した。また、講義などを通じた周知の効果もあり、学内からの進学者が毎年継続的に存在している
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	定員充足率は近年本研究科では以前に比べて明らかな改善が見られているところ、執行部により説明がなされた入試ガイダンスや学部講義等での取り組みは、学内進学者の継続的確保の面からも評価できる。
	改善のための提言	引き続きそれらの取り組みを継続するとともに、様々な経路・キャリアの受験生の増加に向けて具体的な検討が進められることが期待される。
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	定年退職者補充人事の計画的推進の実現	
年度目標	定年対象者補充人事の計画的推進に向けて具体的な検討	
達成指標	学部と連携しつつ、人事の長期的な方向性について協議	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	今後5年程度の間の子供される人事の方針について、学部の政治学科・国際政治学科会議と共に議論を始めた
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学部の政治学科・国際政治学科と連携して教員の採用人事の方針についての議論が開始されていることは、本研究科の教員が両学科でも教育を担当している面からも評価できる。
	改善のための提言	定年退職者補充人事の実現に向けて引き続き取り組みが進められていくことが求められる。
評価基準	学生支援	
中期目標	専攻全体としての学生支援の更なる充実の実現	

年度目標	留学生を中心とする指導体制の強化	
達成指標	院生への個別指導をさらに強化	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	修士論文執筆に向けた中間報告会などの指導を行なっている。4月のオリエンテーションにおいて新入生へのケア、学年を跨いだ交流の機会を提供している
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	修士論文執筆に向けた構想発表会・批評会という中間報告会や4月のオリエンテーションなど様々な機会を通してきめ細かい院生指導が実施されていることは評価できる。
	改善のための提言	引き続き個別と全体の双方で院生への支援が進められることが期待される。
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	公開講演会等の実施の継続的実現	
年度目標	公開講演会の実施に向けた検討	
達成指標	公開講演会の実施に向けて計画	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	公開講演会の実施に向けて議論を開始した
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	公開講演会に向けた議論の開始は社会貢献に向けた準備として評価できる。
	改善のための提言	引き続き公開講演会の実施に向けての議論を具体的なテーマや実施形態の選択肢を挙げつつ検討が進められることが望ましい。
【重点目標】 学生の受け入れ（必須項目）		
【目標を達成するための施策等】 今年度は、学部生に対するゼミなどを通じた情報提供や（本研究科の魅力がより一層認知されるように）広く他大学・社会人等からの受験を確保すべく対外的な説明会などを通して受験生の関心を集めるといった既存の取り組みを行い、受験者の質を確保しつつ、さらなる定員充足率の向上を目指す。		
【年度目標達成状況総括】 今年度は、博士課程へのコースワークの実施、オンライン授業の活用、学生の受け入れ推進や学生支援などにおいて、当初の目標を実現できた。他の政策系研究科との連携や講演会を通じた社会貢献についても検討を進めつつある。次年度以降、こうした成果をふまえ、さらなる目標実現に向けて対応して行きたい。		

IV 2024年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	博士後期課程コースワークの定着
年度目標	博士後期課程コースワークの完全実施
達成指標	全ての博士課程在籍学生に対するコースワークの完全実施を継続する
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	COVID-19対応として導入の教育方法の定着
年度目標	教育内容に応じたオンライン授業の活用
達成指標	教育内容や研究指導の有効性を勘案し、必要に応じてオンライン講義を実施
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】

中期目標	学内の政策系の研究科等との更なる連携・調整強化
年度目標	政策系の研究科の院生を受け入れた授業の展開
達成指標	政策系の研究科の院生を受け入れる講義枠の拡大を図る
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	2019 年度認証評価の本研究科に対する指摘事項とされたのが本項目（の大学院の定員管理）であったことや、定員充足率が 70%にまで昨年度実施の入試の結果改善されたことも踏まえて、引き続き、優秀なより多くの志願者を確保し、厳正な審査実施を行なった上で、合格者・入学者の確保に務める
年度目標	厳正な審査と学生の質の確保を前提とした定員充足率の改善
達成指標	厳正な審査による学生の質を維持しつつ、充足率の一層の改善に向けた方策の模索
評価基準	教員・教員組織
中期目標	定年退職者補充人事の計画的推進の実現
年度目標	定年対象者補充人事の計画的推進に向けて具体的な検討
達成指標	学部と連携しつつ、人事の長期的な方向性について協議
評価基準	学生支援
中期目標	専攻全体としての学生支援の更なる充実の実現
年度目標	留学生を中心とする指導体制の強化
達成指標	院生への個別指導をさらに強化
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	公開講演会等の実施の継続的実現
年度目標	公開講演会の実施に向けた検討
達成指標	公開講演会の実施に向けて計画
<p>【重点目標】</p> <p>学生の受け入れ（必須項目）</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>厳正な審査による受験生の質の確保を前提として、今年度も引き続き博士後期課程を含む定員充足率の改善を目指す。</p> <p>具体的な方策としては、本研究科の特色や魅力を受験生に周知させるための HP 等による広報や大学院進学を希望する学部生への適切な情報提供、オンラインによる受験生説明会等を通じた他大出身者や社会人等の受験生の確保といった既存の取り組みをいっそう充実していく。</p>	

V 2019 年度認証評価指摘事項に対する改善計画報告

種別	内容
基準	基準 5 学生の受け入れ
指摘区分	改善課題
提言（全文）	収容定員に対する在籍学生数比率について、法学研究科修士課程で 0.30、政治学研究科修士課程で 0.40 と低く、人文科学研究科博士後期課程では 2.23 と高いため、大学院の定員管理を徹底するよう改善が求められる。
大学評価時の状況	政治学研究科国際政治学専攻修士課程の定員を 25 人から 10 人に削減するとともに、志願者増加のためにウェブサイト等での広報活動に力を入れる方針を決定。
大学評価後の改善状況・改善計画	2024 年度の修士課程入学者は、政治学専攻 4 名（前年度から増減なし）、国際政治学専攻 5 名（対前年度比 4 名減）、計 9 名（対前年度比 4 名減）で、定員充足率は研究科全体では 45%（対前年度比 20 ポイント減）と後退した。今年度は、このような動向をふまえ、本研究科の特色や魅力を受験生に周知させるための HP 等による広報や大学院進学を希望する学部生への適切な情報提供、オンラインによる受験生説明会等を通じた他大出身者や社会人等の受験生の確保といった既存の取り組みをいっそう充実していく。これにより、入学者の質を維持しつつ定員充足率の一層の向上に努める。
「大学評価	第 1 回研究科長会議資料 No. 8 「2024 年度大学院入学定員充足率（修士課程）」

後の改善状況・改善計画」の根拠資料	
-------------------	--